

シリーズ 障害者の就労事例 21
 福地知己さん（SMBGグリーンサービズ株式会社）

KOTONONE
 Series of Stories
 vol.21

銀行の星



編集部=文
 text by KOTONONE
 岸本 剛=写真
 photograph by Tsuyoshi Kishimoto

「マックフルーリー」も 「山の辺の道」も、遠い夢だった

「今後精神障害者を雇用しないと、
 障害者雇用は成り立たないと思うんです」。
 そう、福地知己さんは言った。
 統合失調症を発症した
 自分だからこそ、できることがある。
 「働きたい」という夢を叶えたいま、
 今度は誰かの「働く」を支えたい。
 暗闇の中でもがいた日々が、
 いまの福地さんの原動力になっている。



四〇〇人の 障害者が働く会社

福地知己さんの職場、SMBGグリーンサービズ株式会社は、日本三メガバンクの一つ、三井住友銀行の特例子会社。従業員数約三万人、国内に四四〇の拠点を持つ巨大企業の障害者雇用は、この特例子会社が推進している。一九九〇年、都市銀行の中ではじめて設立された特例子会社であるSMBGグリーンサービズは、働く障害者社員約四〇〇名、事業所は

全国八カ所を数える。子会社ながら、人数を見れば立派な大企業だ。
 大阪業務部長の森島竜志さんが、業務内容を説明してくれた。「もともと親会社である三井住友銀行は、それぞれの支店ごとに事務処理をやっていたんですが、大きな流れとして、個々の支店はお客さまの相談業務に比重を移し、事務は集中して処理していくという動きがあるんです」。SMBGグリーンサービズもこの流れを受け、設立当初は、銀行から委託を受

けた比較的単純な作業を請け負っていたが、現在は「税務調査」や「手形・小切手の発行」など銀行本体の事務に欠かせない業務の一部を担っている。
 二〇一〇年四月から、ここ大阪業務部で働く福地さん。あいさつを終え、手元を見ると事前に送った質問項目に丁寧な文字が書きこまれている。緊張しいので……と言うが、きちんとした仕事ぶりが、想像できる。やわらかい表情や、しつかりとした受け答えからは、統合失調症を発症し、働くことはおろか、体を起こすことさえできなかったという話が、嘘のように思える。しかし、福地さんは「ここまでよくなったのも、仕事のおかげだと思います」と言っていて、当時のことを話してくれた。

ただ体が悪いと思っていた

最近ちよつと胃が痛いなあというのが、思い返すと、福地さんの統合失調症のはじまりだった。病院に行くとストレスで胃が荒れている、という診断。しかし薬を飲んでも、一向によくならない。当時勤めていたのは建築会社で、終電を逃すことも珍しくない毎日。忙